



## 近世の子ども絵本におけるオノマトペ(二〇〇七年度 卒業論文要旨集)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学国語国文学会・札幌 公開日: 2012-01-23 キーワード: 作成者: 北村, 麻衣 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/00007297">https://doi.org/10.32150/00007297</a>

## 近世の子ども絵本におけるオノマトペ

国語学研究室 四〇四三 北村 麻衣

オノマトペは、日本人ならば誰もが、その意味を直感的に理解できる語であるので、言語が未発達な子どもにも馴染みが深く、現代の絵本にはオノマトペが用いられていることが多い。

本研究は、刊行された、読者に子どもを想定した絵本のはじめである近世の絵入り本を対象とし、その中に用いられているオノマトペの特徴を明らかにすることをねらいとした。

近世の子ども絵本にあたる赤本・黒本・青本・上方絵本の百四十二作品を研究対象とした。その中から、延べ語数五百二十六語、異なり語数二百八十四語のオノマトペを収集し、形態・用法・意味の三点からオノマトペの特徴と、特徴が現れる要因について考察した。また、現代の絵本におけるオノマトペとの比較を行った。

近世の絵本におけるオノマトペの特徴は、子どものみではなく、子どもと大人両者を読者に想定していることが要因となつて現れている。臨時的なものが多い、文外で独立して用いられることが多い、という特徴は、子どもの読者を想定した本であることが要因と考えられる。また、現代の絵本と比べて使用頻度が少ない、人に関するものが多い、しゃれなどに用いられている、という特徴は、大人の読者も想定された本であることが要因であると考えられる。